とある×けいおん!!＋オリキャラ達

神風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある×けいおん！！＋オリキャラ達

【Ｎコード】

Ｎ３５３５Ｚ

【作者名】

神風

【あらすじ】

けいおん！！とある魔術の禁書目録の世界を混ぜた作者の欲望の詰まった作品です。

Ｍｅｍｂｅｒ～キャラ紹介～（前書き）

初投稿です

暖かい目で見てください

Ｍｅｍｂｅｒ～キャラ紹介～

キャラ紹介

名前　水神（ミナカミ）　浬（カイリ）　転生者

性別　男

髪型　毛先を遊ばせた空色の髪をしている

能力　エレメントマスター〈ＲＡＶＥ〉に氷の属性をプラスした能力を持つ

名前　檜山（ヒヤマ）　來斗（ライト）　転生者

性別　男

髪型　茶色のパーマ

能力　具現のアーク〈FAIRY　TAIL〉

名前　霧崎（キリサキ）　椎名（シイナ）転生者

性別　女

髪型　赤茶のサイドテール

能力　理想を現実に変える力〈植木の法則〉

名前　アイリ　天使

性別　女

容姿　腰の辺りまで伸ばした緋色

能力　物質創造

Ｍｅｍｂｅｒ～キャラ紹介～（後書き）

今回はキャラ紹介させてもらいました

次回から本編です

Ｌｉｆｅ　ｉｓ　Ｒｅｓｔａｒｔ～転生～

どうも、どうも、水神浬だぜ！！

突然だけど俺、死にました。

さらに、びっくり、転生します。

しかも、原作に関する、知識が消えちゃうんだって

行き先は、行ってからのお楽しみだってさ

タイトルにかいてあるって？

細かいことは気にしない

それじゃ本編のはじまり、はじまり～

四月某日

高校の始業式が終わって三日目の朝、俺は、ただいま全力で走っている

理由？

学校に遅刻しそうなんだよ！！！

「なんとか間にあった……」

俺は肩で息をしながら『共学』となった私立桜ヶ丘高校の一年一組の教室へ入っていった。

「おはよ〜！浬〜！」

一応友達にして、俺と同じ転生者の檜山來斗が俺に飛びついてきたが……

ドゴッ！！

俺が、來斗を殴り飛ばした。

クラスのみんなは、見慣れた光景なので、來斗が吹っ飛んだことには誰も反応しなかった。

「星になれガチホモが」

「まったく効かないぞ浬！！」

結構本気でやったのに來斗は、何事もなく立ち上がった。

俺もそうだけど、転生したことにより、身体能力が格段に上がってるみたいなんだよね

「ＨＲはじめるから席に着け」

俺が誰もいないほうを見ながら説明をしていると、担任の教師が教室に入ってきた。

そこの君！痛い子なんて言うんじゃない、俺って結構傷つきやすいんだぞ、言うなら心の中にしておけ！

「なに一人でぶつぶつ言ってんだ」

來斗が心配そうな顔をしながら言った。

「状態説明？」

「頭大丈夫か？なんなら保健室まで連れてってやるぞ」

「マジで星になるか？」

拳を構えながら笑顔で言った。

「目が笑ってねぇよ！！」

放課後

俺は、いまだに覚えていない校舎を覚えるためにあちこちを歩いていて今は、どのクラブも使っていない音楽室の前にいた。

「ピアノか……」

最近弾いてないな…弾いてみるか

パチパチパチパチ

俺がピアノを弾き終わると、いつの間にかカチューシャをつけた少女が拍手をしていた。

「軽音部に入ってくれ」

カチューシャをつけた少女がなんの前触れもなく突然言った。

「あんた、誰？」

「あたしは、二組の田井中律、で、答えは？」

「別にいいよ暇だし」

「やった〜！部員確保！！」

田井中は、その場で飛び上がっていた。

どんだけうれしいんだよ

「で、名前は？」

知らないで勧誘したのかよ…

危うくこけそうになったがギリギリでなんとかたえた

「水神浬、クラスは一年一組だよ」

「よろしくな浬、あたしのことは、律でいいよ」

「こちらこそ、よろしく」

「そうと決まれば、部室へいくぞ」

俺は、律に腕を引っ張られる形で部室へ向かった。

「ここが、軽音部の部室だ」

律が部室のドアを開けながら言った。

「遅いじゃないか…って誰だその人は」

ロンゲに黒色の髪をした少女が部室の中から少しだけ怒りながら言った。

「聞いて驚け、新しい部員の水神浬だ」

「本当か？」

黒髪の少女が半信半疑でいるようだった。

信じられてないんだな、助け舟を出してやるか

「今さっき律が言ったけど、今日から、軽音部に入部することにな

った水神浬です、よろしく」

「秋山澪です、よろしく」

俺が自分で口にしたことで信じたようで黒髪の少女、秋山澪は自己紹介をした。

「楽器は何ができるんだ？」

秋山は人見知りをするらしくびくびくしながら聞いてきた。

「基本的に全部できるよ、でも、その中でも特にってのはベースかな」

「利き腕ってどっち？」

「左だけど」

その瞬間、秋山の目が輝いた。

「ようこそ軽音部へ！歓迎するぞ、それと、私のことは気軽に澪っ

て呼んでくれ」

なんだ！？突然どうしたんだ？

「（同じレフティーに会えたから喜んでんだよ）」

律が、俺の反応を見て、分かったらしく説明してくれた。

意外と空気の読めるみたいだな

俺が心の中で律を褒めていたら、部室の扉が開かれた。

Ｌｉｆｅ　ｉｓ　Ｒｅｓｔａｒｔ～転生～（後書き）

次回は転生者の話になります

Ｉｒｒｅｇｕｌａｒ～転生の意味～

開かれた扉から出てきたのは、目の上にたくあ…じゃなくて、特徴のある眉毛をした少女だった。

「もしかして、入部希望者？今日はラッキーな日だな、もう部員が４人になったよ」

律が相手の話をまったく聞かずに、決めてしまった。

「これで４人って、まさかこの軽音部って廃部寸前だったのか！？」

「律から、何も聞かなかったのか？」

「何も聞いてないよ、入るって言ったら、律が勝手に舞い上がって、そのまま部室につれてこられたし…」

「り～～つ～～！！！」

「い、いや、あの……そうだ、君、なんて名前なの？」

澪から逃げるために先ほど来た少女の名前を聞いた

「琴吹紬です。ムギって呼んでください」

「俺は水神浬です」

「秋山澪です」

「田井中律です」

「楽器は何ができるんだ？」

「楽器？」

律の言葉に、ムギは頭に？マークを浮かべていた。

「軽音部に来たんだから、何か楽器ができるんじゃないのか？」

「え！？ここ軽音部なの？私、合唱部に入部しようと思っただけど……」

「え！？そうなのか？誰だよ、ムギが軽音部に入るなんて言ったやつ」

律がそう言って俺らのほうを見た。

「お前だろ、馬鹿でこ！」

「でこのことを言うな、女顔！」

「人の気にしてることを言うんじゃねぇ！！」

「バ浬だって、言ったじゃんか」

「バを付けるんじゃねぇ！」

「ぷ！！」

俺達が言い合いをしていると、突然ムギが吹き出した。

「なんか面白いことでもあったのか？」

半分空気となっていた澪がムギに聞いた。

「二人が、あまりにも面白かったから」

「でこのせいで、ムギに笑われちゃったじゃねえか」

「あたしじゃないよ、バ浬のせいだ！」

「いいわ、私、軽音部に入るわ」

「「「へ！？」」」

ムギの、まさかの発言に、俺達3人は見事なハモリで素っ頓狂な声を上げた。

「ほんとに入ってくれるのか？何で急に？」

いち早く正気に戻った律が聞いた。

でこのくせに一番だと…負けた……

「本当よ、だって二人が面白いんだもん」

「これで部員が４人になった～～～！！」

またもや、律が舞い上がった。

「で、ムギって楽器なにができるんだ？」

一人で舞い上がっている律を無視しながら、澪が聞いた。

「ピアノなら弾けるわ」

Ｐｒｒｒｒｒｒ

俺達が楽しく会話をしていると、その会話裂くかのように俺の携帯がなった。

液晶画面にはアイリと表示されていた。

俺は律達に一言断ってから部室から出た。

「もしもし？」

「浬？」

「そうだよ、また仕事か？」

「いつもごめんね、辛くない？」

「別にいいよ、人助けするのは嫌いじゃないし」

「それじゃよろしくね」

アイリとの電話が切れると俺の目の前にどこ〇もドアが現れた。

律達に少し出かけるといって扉をくぐった。

扉をくぐったさきは、どこかの廃墟らしき場所だった。

そこには、一人の男がいた。

俺と同じ転生者

ただし、悪魔側の転生者が

転生者には2つのパターンがある
悪魔に転生してもらったか天使に転生してもらったかのどちらかのパターンである
ちなみに俺や來斗は後者にあたる
生前、罪を犯していると通常、地獄に落ちることになっている
しかし、選ばれた人間だけが悪魔の願いをかなえることで転生させてもらえることができる
悪魔の願いは……

世界を魔界に変えること

しかし、そうすると悪魔と悪魔に選ばれた転生者以外は魂が消滅してしまう
それを阻止するのが天使に選ばれた転生者、つまり俺や來斗のことである

「お前、天使(あっち)側の転生者だな」

男は、俺を見るなりそう言った。

「だったらどうする？」

あえて男を挑発するように言った。

「天使側の転生者は、全員ぶっ殺す！！！！！」

「バリバリの死亡フラグだぜ、そのセリフ」

「火拳！！」

男の叫びと共に拳の形をした炎の塊が俺のほうに向かってきた。

しかし、俺が手を前に突き出した瞬間、炎の塊は凍りついた。

「な！？」

男に一瞬の隙ができた。

その一瞬の隙に俺は男の懐へもぐりこみ氷の剣を作り出し男の心臓を貫いた。

剣を刺したまま俺は、男から距離をとった。

その瞬間、氷がどんどん広がって行き、最終的に男を氷づけにした。

俺は、携帯をポケットから取り出しアイリに報告をした。

そのあとは行きと同じようにどこ〇もドアで部室に戻ったんだが……

「なんか一人増えてない？」

Ｉｒｒｅｇｕｌａｒ～転生の意味～（後書き）

律「祝！映画公開～～～！！」

澪「言うの遅くないか？

律「しょうがないじゃん、作者の投稿が遅かったんだし」

作「こっちにもいろいろあるんだよ」

澪「前話のとき言えばよかったんじゃないか？」

作「……」

律「黙ってないでなんか言ってみろよ」

澪「（律が、不良みたいになってる…」

作「黙秘権を行使します」

律「却下！！」

作「俺に、人権は無いの？」

律「人間だったのか？」

作「真顔で驚くな！ってかキャラ違うくない？」

律「当たり前だろ、こんなときじゃないと崩壊できないんだから」

作「自分で言うな！！もういい帰る！」

澪「どこへ帰るんだろう…」

律「さぁ？てか、作者も帰っちゃたし、お開きにするか」

澪「そうだな」

律澪「「次回もよろしくお願いします」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3535z/

とある×けいおん!!＋オリキャラ達

2011年12月13日09時54分発行